

コラージュ表現の場としての台紙の形の検討

—大学生の自己への気づきを目的として—

石橋茉奈^{*}・石田 弓^{**}

A Study for Shapes of Pasteboard on Collage Expression
—for University Students' Self-Understanding—

Mana Ishibashi, Yumi Ishida

For this study, university students were asked to create a collage using circular and square pasteboards. Focusing on the impressions the participants obtained from the shapes of the pasteboards for collage expression, this study examined if it were related to self-understanding. In addition, the usability of collage using circular pasteboards was examined. The participants' impressions were different between the two types of pasteboards, and also a different degree of self-understanding was acquired from collage expression and creation depending on the shape of the pasteboard. Circular pasteboards can be useful because it facilitates the ideas and imagination of creators and enables free expression.

Key words: Collage Therapy, Circular pasteboard, Self-Understanding

問題と目的

コラージュ療法とは コラージュ療法は、日本では「持ち運べる箱庭」という発想で個人療法として森谷 (1993) を中心に広められた。近年では、心理療法のみならず、自己開発の分野でも注目を集めている (青木, 2000)。臨床場面においては、継続的に作品を作ることでクライアント理解や治癒に繋がると考えられている (烏丸, 2007)。

箱庭に比べ、比較的容易に様々な場面での導入が可能であるという便利な側面もある (烏丸, 2007) が、齋藤 (1993) は、箱庭のような枠がないことと、持ち運び可能な簡便さのために、箱庭のある部屋という意味での「部屋の守り」が薄くなることから、コラージュには外的な意味での守りにやや弱い面があることを指摘している。

台紙の形と円形 中村 (1999) は、“コラージュ技法では台紙空間が心的空間を〈投影する場〉であり、心的事象が生起する場所”と指摘している。描画表現やコラージュ表現において、まず表現

^{*} 広島大学大学院教育学研究科 (Graduate School of Education, Hiroshima University)

^{**} 広島大学大学院教育学研究科附属心理臨床教育研究センター (Training and Research Center for Clinical Psychology, Graduate School of Education, Hiroshima University)

という行為に結び付くか否かには、心的・内的イメージを表に表そうとする意思があることを前提とし、その上で表現者の意思・イメージにマッチした表現対象を置ける場であり、かつ、表現行為において生じる表現しにくさを少しでも解消できる場であることが望ましい（佐藤・松村, 2004）。

つまり、コラージュを制作する上で、制作者にとって台紙が表現の場としてふさわしいかどうかの問題となると考えられるが、その一つの観点として、台紙の形が挙げられる。一般に、コラージュ療法では四角形（長方形）の台紙が用いられるが、臨床現場では、台紙の角を切り落としたり、円形に切り抜いたりするなどの工夫が報告されている（佐藤・松村, 2004）。

佐藤・松村（2004）は、コラージュ療法における台紙が表現アクティビティ全体にどのような影響をもたらしているかを検討するため、大学生に円形と四角形の描かれた用紙を呈示し、それぞれの形に対するイメージを評定させた。その結果、異なる3因子構造を持つことが示され、円形と四角形からは異なる印象を受けることが示された。円形は欠けることのない安定性や、相対立する概念をも無限に含みうる状態を意味し、四角形は底辺があることによる地につく安定感とそれによる方向を持った活動性を意味していると考察されている。また、山口・王・椎名（2004）は、形の心理物理的特徴と意味的特徴の関係を検討するため、図形から受ける印象を測定した。円などの曲線のある図形は「やわらかい」、「かわいらしい」、「美しい」からなる柔和性因子を持ち、四角形などの直線的な図形では、柔和性は低いこと、図形から受ける印象は曲線性の差異によって強く影響されることが示唆されている（山口他, 2004）。

林（1991）は“円は外に対する防御を意味しているだけではなく、内部のものが外に流れ出さないように守っているという意味をもっている”と述べている。田中・今野・小佐野（2003）は、楕円枠が印刷された画用紙を用いた卵画と洞窟画の研究において、円形の大きな特徴として、“丸みを持った形態によって空間を閉じることにより、内なるものと外側との間に‘隔て’や‘境界’を設け、内なるものを再び浮かび上がらせる”と述べている。丹治（2000）は、箱庭療法において、円形の砂箱がシンメトリックな作品制作を誘発し、制作者の心理的安定感や面接の進展に結び付く可能性を示唆している。

本研究の目的 このように、先行研究の知見より、円形と四角形が与える印象は異なることがわかっていて、2つの図形の印象の違いから、コラージュ制作においても、表現の場としての台紙の形が制作者に何らかの心理的影響を与えるのではないかと考えられる。特に円形の台紙では、「守られた場」であることと内的側面を有していることから、筆者は制作者の感情や願望が表現されやすいのではないかと考えた。また、青木（2009）が円形の台紙を用いたコラージュを通してより具体的な考察が可能になると述べていることから、円形の台紙を用いたコラージュでは、制作者の自己への気づきが、四角形の台紙で得られるものと異なっていると考えた。

そこで本研究では、コラージュを「画用紙に自由に、雑誌などの切り抜きを貼り付けて作る作品のこと」と定義し、円形の台紙と通常の四角形の台紙を用いて、大学生を対象にコラージュ制作を行う。コラージュ表現の場として、台紙の形からどのような印象を受けたかに着目し、それが自己への気づきにつながっているかどうかを検討することを目的とする。そして、円形の台紙を用いたコラージュの有用性について検討する。

方法

調査対象者 19歳から21歳の大学生20名(男性7名,女性13名)。平均年齢20.45歳($SD=.69$)。

調査用具 はさみ, のり, 2種類の画用紙, コラージュ素材, 質問紙, ICレコーダーを用いた。

四角形の台紙はA4サイズの画用紙(21×29.7cmの長方形)を用い, 円形の台紙は四角形の台紙とほぼ同じ面積になるように円形に切り抜いた画用紙(半径14cmの円形)を用いた。コラージュ素材は, ロールシャッハテストの反応内容や箱庭療法の使用玩具等を参考にした赤塚(2005)の研究を参考に, 既存の雑誌から筆者が選び出した。心理学専攻の学部生2名にそれらの素材を使ってコラージュを制作させ, 素材の数や種類について足りないものを指摘させ, 素材を追加した。選んだ素材をA4サイズ用の紙32枚にカラー印刷し, 共通素材を作成した。

手続き 同一の対象者に2種類の台紙でコラージュを制作させたが, 順序効果の影響を考慮しカウンターバランスを取るために, 先に円形の台紙にコラージュを制作する群(A群)と, 先に四角形の台紙にコラージュを制作する群(B群)に無作為に分けた。

調査は, 調査の説明とコラージュ制作, 質問紙の回答を行う第1セッションと, 1週間後に第1セッションで用いたのとは異なる形の台紙を用いたコラージュ制作, 質問紙への回答, 半構造化面接を行う第2セッションで構成した。1つのセッションはそれぞれ1時間程度であった。

自己理解促進を目的としてコラージュを制作させた重松(2008)にならい, 「私」というテーマでコラージュを制作させた。作品の上手さや良し悪しを見るものではなく, 自由に作ること, 台紙は切らないことを教示した。また, 四角形の台紙は長方形の長辺が対象者に正対するように呈示し, 向きは自由に変えて良いことを教示した。制作時間の目安は40分とし, 30分経過したところで残り10分で仕上げるよう伝えた。40分が経過したら制作の途中であっても終了するよう教示した。40分以内に出来上がった場合は, そこで終了とした。

第2セッションでは, 第1セッションで用いたコラージュ素材を再び使用しても, 使用しなくてもよいという説明を追加し, 第1セッションで用いたものとは異なる台紙を用いてコラージュを制作させた。

質問紙 いずれのセッションでも, 制作後にコラージュ内容を問う質問紙に回答させた。質問項目をTable1に示した。質問項目は, ①コラージュで何を表したか, ②「私」を表す切り抜きはあるか, ③「私」らしい作品ができたかについて自由記述を得ることを目的に筆者が作成した。

半構造化面接 コラージュ制作により得られた自己への気づきの内容と, 台紙の印象が自己への気づきに繋がったかどうかを調べるため, 半構造化面接を行った。応答は, 対象者に許可を得てICレコーダーで録音した。半構造化面接における質問項目をTable2に示した。

結果

質問紙の結果 まず, 質問紙の結果について集計した。自由記述の項目については, 得られた回答を分類し, カテゴリーを抽出した。以下, 抽出した中カテゴリーを《 》, 中カテゴリーの下位分類である下位カテゴリーを〈 〉, 中カテゴリーをさらにまとめた大カテゴリーを【 】で示した。

質問項目1-1から得られたコラージュ内容に関する記述を分類し, カテゴリーを抽出した(Table3)。

Table 1. 質問紙の質問項目

項目番号	質問項目
(1-1)	コラージュ作品でどのようなことを表しましたか。
(2-1)	「私」を表している切り抜きはありますか。あてはまるものに○をつけて下さい。
(2-2)	(2-1)で「はい」と答えた方は、どれがその切り抜きか、下の欄にお書き下さい。
(3-1)	「私」らしい作品が出来たと思いますか。あてはまる数字に○をつけて下さい。(5件法)
(3-2)	どのあたりに「私」らしさが表れていると思いますか。下の欄にお書き下さい。

Table 2. 半構造化面接の質問項目

質問項目
(1)この調査以外でコラージュをつくったことはありますか。
(2)1回目と2回目とで、画用紙の形が違いましたが、画用紙の形からどのような印象を受けましたか。
(3)画用紙の形を意識して、コラージュを作りましたか。
(4)私を表す切り抜きについて、それにしたのは何故ですか。
(5)コラージュに自分の気持ちや願望は表れていると思いますか。
(6)コラージュを作ってみて、自分について何か気がついたことはありましたか。
(7)「私」というテーマでコラージュを行うことについて、抵抗や不安はありましたか。
(8)そのほか、作ってみて気がついたことがあれば教えてください。

Table 3. コラージュ内容についての自由記述 (1-1) のカテゴリ分類と観測度数

中カテゴリ	下位カテゴリ	分類基準	観測度数(%)	
			円形	四角形
好きなこと	好きなこと	自分の好きなことを表現した	6(21.4)	7(25.9)
理想*	理想	自分の理想を表現した	2	3
	将来	将来の自分を表現した	5	3
	願望	自分の願望を表現した	4	0
			11(39.3)	6(22.2)
現在の自分*	日常	自分の日常生活を表現した	2	2
	考えていること	自分が考えていることを表現した	2	3
	気持ち	自分の気持ちを表現した	0	3
	自分のイメージ	自分のイメージを表現した	2	1
			6(21.4)	9(33.3)
自分史	自分史	自分の過去について表現した	4(14.3)	4(14.8)
他者から見た自分	他者から見た自分	他者から見た自分について表現した	1(3.6)	1(3.7)
			28	27

複数回答あり。*は円形と四角形とで、観測の割合に10%以上差のあったカテゴリ。

次に、円形の台紙と四角形の台紙を制作した時の各カテゴリの観測度数を算出した。以下、同一人物が複数回答をした場合は、それぞれ別の発言として観測度数に含めた。円形の台紙と四角形の台紙において、カテゴリごとの観測の割合の差が10%以上であった中カテゴリは《理想》、《現在の自分》であり、《理想》は四角形の台紙より円形の台紙で多く、《現在の自分》は円形の台紙より四角形の台紙が多かった。

次に、質問項目 2-1 で尋ねた、「私」を表す切片的有無の回答数を Table4 に示した。台紙の形による「私」を表す切片的有無に差は見られなかった。

次に、質問項目 2-2 で得られた、「私」を表す切片を分類した (Table5)。円形の台紙と四角形の台紙を制作した時の各カテゴリの観測度数を算出したところ、円形の台紙と四角形の台紙において、カテゴリごとの観測の割合の差が10%以上であった中カテゴリは《人物》、《動植物》であり、《人

Table 4. 「私」を表す切片の有無を尋ねる質問(2-1)の回答数

	円形	四角形
はい	15	14
いいえ	3	4
わからない	2	2
計	20	20

Table 5. 「私」を表す切片についての自由記述(2-2)の分類と観測度数

大カテゴリ	中カテゴリ	分類基準	観測度数(%)	
			円形	四角形
切片あり*	人物*	人物の切片を「私」とした	12(66.7)	7(53.8)
	動植物*	動物または植物の切片を「私」とした	2(11.1)	3(23.1)
	非生物	生物以外の切片を「私」とした	4(22.2)	3(23.1)
			18(78.3)	13(65.0)
切片なし*	切片なし	「私」を表す切片がなかった	3	5
	不明	「私」を表す切片があるか分からない	2	2
			5(21.7)	7(35.0)
			23	20

複数回答あり。*は円形と四角形とで、観測の割合に10%以上差のあったカテゴリ。

物》は四角形の台紙より円形の台紙で多く、《動植物》は円形の台紙より四角形の台紙で多かった。

質問項目 3-1 で得られた、「私」らしい作品ができたか尋ねる質問の回答の平均と標準偏差を Table6 に示した。台紙の形による「私」らしさの表出に差は見られなかった。

次に、質問項目 3-2 から得られた、「私」らしさの表出についての自由記述を分類、カテゴリ抽出した (Table7)。円形の台紙と四角形の台紙で制作した時の各カテゴリの観測度数を算出したところ、円形の台紙と四角形の台紙において、カテゴリごとの観測の割合の差が 10%以上である中カテゴリは《制作時の気分》、《コラージュ内容》であり、《制作時の気分》は四角形の台紙より円形の台紙で多く、《コラージュ内容》は円形の台紙より四角形の台紙で多かった。

半構造化面接の結果 次に、半構造化面接での応答を分類し、カテゴリを抽出した。調査対象者の語りのうち、質問の答えになっていないものは分析から除外した。

質問項目 1 から得られた、コラージュ制作経験についての質問の回答数を Table8 に示した。コラージュ制作経験がない者がほとんどであり、円形の台紙を用いてコラージュを制作した経験がある者はいなかった。

質問項目 2 から得られた、台紙の形から受けた印象についての回答をカテゴリ抽出した (Table9)。次に、円形の台紙と四角形の台紙で制作した時の各カテゴリの観測度数を算出した。以下、同一人物が複数回答をした場合はそれぞれ別の発言として観測度数に含めた。差が 10%以上ある中カテゴリは、《やりやすさ》、《やりにくさ》、《その他》、《特になし》であった。《その他》は分類の難しい項目を便宜的に 1 つにまとめただけであるため、考察対象から除外した。《やりやすさ》は四角形の台紙より円形の台紙で多く、《やりにくさ》、《特になし》は円形の台紙より四角形の台紙で多かった。

質問項目 3 から得られた、コラージュ制作時における台紙の形への意識内容について、カテゴリ

Table 6. 「私」らしい作品ができたか尋ねる質問(3-1)の回答

	円形	四角形
平均	4.35	4.21
標準偏差	.59	.54

Table 7 「私」らしさの表出についての自由記述(3-2)のカテゴリ分類と観測度数

中カテゴリ	下位カテゴリ	分類基準	観測度数(%)	
			円形	四角形
制作時の気分*	深く考えずできた*	深く考えずに制作できたことが「私」らしさにつながった	5(16.7)	1(3.7)
コラージュ内容*	好きなもの	好きなものを貼ることができた	5	4
	内面	自分の内面が表れている	7	10
			12(40.0)	14(51.9)
形式的側面	配置	配置の仕方が「私」らしさにつながった	4	2
	色	「私」らしさに色が関連している	3	3
	切片	選択した切片が「私」らしさにつながった	4	6
			11(36.7)	11(40.7)
その他	その他	上記分類基準に当てはまらないもの	2(6.7)	1(3.7)
			30	27

複数回答あり。*は円形と四角形とで、観測の割合に10%以上差のあったカテゴリ。

Table 8. コラージュ制作経験に関する質問(質問1)の回答

ある	2
ない	17
おそらくない	1
計	20

Table 9. 台紙の形から受けた印象(質問2)の回答のカテゴリ分類と観測度数

大カテゴリ	中カテゴリ	下位カテゴリ	分類基準	観測度数(%)	
				円形	四角形
印象あり*	やりやすさ*	発想しやすさ	コラージュ表現や内容が発想しやすかった	9	0
		配置しやすさ	切片を配置しやすかった	10	0
				19(82.6)	0(0.0)
	やりにくさ*	発想しにくさ	コラージュ表現や内容が発想しにくかった	0	2
		制限	枠によって制限されている印象を受けた	1	7
				1(4.3)	9(45.0)
	その他*	明るさ	明るい印象を受けた	1	1
		規則性	規則性に関する印象を受けた	0	3
		大きさ	大きさに関する印象を受けた	0	2
				1(4.3)	6(30.0)
				21(91.3)	15(75.0)
印象なし*	特になし*	特になし	特に印象を受けなかった	2(8.7)	5(25.0)
				23	20

複数回答あり。*は円形と四角形とで、観測の割合に10%以上差のあったカテゴリ。

を抽出した (Table10)。円形の台紙と四角形の台紙で制作した時の各カテゴリの観測度数を算出したところ、差が10%以上ある中カテゴリは、《配置》、《意識なし》であり、《配置》は四角形の台紙より円形の台紙で多く、《意識なし》は円形の台紙より四角形の台紙で多かった。

質問項目4で得られた、「私」を表す切片の選択理由について、カテゴリ抽出を行った(Table11)。円形の台紙と四角形の台紙で制作した時の各カテゴリの観測度数を算出したところ、差が10%以上ある中カテゴリは、《内面の表現》であり、四角形の台紙より円形の台紙で多かった。

Table 10. 制作時における台紙の形への意識(質問3)の回答のカテゴリ分類と観測度数

大カテゴリ	中カテゴリ	下位カテゴリ	分類基準	観測度数(%)	
				円形	四角形
意識あり	切り方	四角	切片を四角形に切った	0	2
		角をとる	切片を角をとった切り方をした	2	0
				2(9.1)	2(12.5)
	配置*	枠	台紙の枠を意識して配置した	5	1
		中心	中心を意識して配置した	8	3
		ブロック分け	台紙を区切って異なる表現や内容を配置した	1	3
		余白	余白を意識した	0	2
		切片のサイズ	切片のサイズを意識した	1	0
				15(68.2)	9(56.3)
	表現内容	表現内容	表現内容について意識した	5	5
				5(22.7)	5(31.3)
				22(95.7)	16(80.0)
意識なし*	意識なし*	意識なし	台紙の形を意識しなかった	1(4.3)	4(20.0)
				23	20

複数回答あり。*は円形と四角形とで、観測の割合に10%以上差のあったカテゴリ。

Table 11. 「私」を表す切片の選択理由(質問4)の回答のカテゴリ分類と観測度数

大カテゴリ	中カテゴリ	分類基準	観測度数(%)	
			円形	四角形
切片あり	理想像	自分の理想像であるから	2(11.1)	3(17.6)
	外見の類似	自分の外見と似ているから	4(22.2)	4(23.5)
	内面の表現*	自分の内面を表しているから	12(66.7)	8(47.13)
	自分との関連	自分に関する切片であるから	0(0.0)	1(5.9)
	その他	上記分類基準に当てはまらないもの	0(0.0)	1(5.9)
			18(78.3)	17(70.8)
切片なし	切片なし	「私」を表す切片はない	5(21.7)	7(29.2)
			23	24

複数回答あり。*は円形と四角形とで、観測の割合に10%以上差のあったカテゴリ。

質問項目 5 より得られた、コラージュへの自分の気持ちや願望の表出について、カテゴリ抽出を行った (Table12)。円形の台紙と四角形の台紙で制作した時の各カテゴリの観測度数を算出したところ、差が 10%以上ある中カテゴリはなかった。

質問項目 6 で得られた、自己への気づきについてカテゴリ抽出を行った(Table13)。円形の台紙と四角形の台紙で制作した時の各カテゴリの観測度数を算出したところ、カテゴリごとの観測の割合の差が 10%以上である中カテゴリはなかった。カテゴリごとの観測の割合の差が 10%以上である下位カテゴリは〈他者から見た自分〉であった。また、〈現状〉はカテゴリごとの観測の割合の差が 9.6%であったが、考察対象に含めた。〈他者から見た自分〉は四角形の台紙より円形の台紙で多く、〈現状〉は円形の台紙より四角形の台紙が多かった。

質問項目 7 から得られた、2 つの作品のうちより「私」らしいと思う作品とその理由についてカテゴリ抽出を行った (Table14)。円形の台紙と四角形の台紙で制作した時の各カテゴリの観測度数を算出したところ、2 つの作品における「私」らしさに【差異あり】と答えたものが、【差異なし】と答えたものより多かった。また、円形の台紙で制作した作品のほうが「私らしい」と回答した割

Table 12. 気持ちや願望の表出(質問5)の回答のカテゴリ分類と観測度数

大カテゴリ	中カテゴリ	分類基準	観測度数(%)	
			円形	四角形
表出あり	好意	自分の好きなものを表現	3(16.7)	3(15.8)
	希望・憧れ	希望や憧れを表現	6(33.3)	6(31.6)
	欲求	自分の欲求について表現	4(22.2)	4(21.1)
	回想	過去の経験に対する気持ちを表現	2(11.1)	2(10.5)
	気分	現在の気分を表現	3(16.7)	4(21.1)
			18(90.0)	19(95.0)
表出なし	表出なし	気持ちや願望を表現しなかった	2(10.0)	1(5.0)
			20	20

Table 13. 自己への気づきの内容(質問6)の回答のカテゴリ分類と観測度数

大カテゴリ	中カテゴリ	下位カテゴリ	分類基準	観測度数(%)	
				円形	四角形
気づきあり	現在の自分の状態	自分の好み	自分の好みについての気づき	6(33.3)	6(31.6)
		他者から見た自分*	他者から見た自分についての気づき	3(16.7)	1(5.3)
		理想・希望	理想や希望についての気づき	2(11.1)	1(5.3)
		現状*	現在の自分の状況についての気づき	3(16.7)	5(26.3)
		性格・傾向	自分の性格や傾向についての気づき	1(5.6)	2(10.5)
		表現の経験	自己を表現する経験の無さについての気づき	2(11.1)	2(10.5)
				17(94.4)	17(89.5)
	過去の自分	過去	過去の自分についての気づき	1(5.6)	2(10.5)
				18(90.0)	19(90.5)
気づきなし	特になし		気づきはなかった	2(10.0)	2(9.5)
				20	21

複数回答あり。*は円形と四角形とで、観測の割合に10%以上差のあったカテゴリ。

Table 14. 「私」らしさを感じる理由(質問7)のカテゴリ分類と観測度数

大カテゴリ	中カテゴリ	分類基準	観測度数(%)	
			円形	四角形
差異あり*	好みの表現*	自分の好きなものを表現できたため	3(15.0)	0(0.0)
	現在の自分	現在の自分を表現できたため	5(25.0)	6(30.0)
	希望・願望の表現*	希望や願望を表現できたため	2(10.0)	0(0.0)
	その他*	上記分類基準に当てはまらないもの	2(10.0)	0(0.0)
			12(60.0)	6(30.0)
差異なし	差異なし	台紙の形により自分らしさの差異なし	2(10.0)	
			20	

*は円形と四角形とで、観測の割合に10%以上差のあったカテゴリ。

合が高かった。差が10%以上である中カテゴリは《好みの表現》、《希望・願望の表現》、《その他》であった。《その他》は分類の難しい項目を便宜的に1つにまとめただけであるため、考察対象から除外した。《好みの表現》、《希望・願望の表現》は四角形の台紙より円形の台紙で多かった。

質問項目8で得られた、「私」というテーマでのコラージュ制作において感じた抵抗や不安について、カテゴリ抽出を行った(Table15)。円形の台紙と四角形の台紙で制作した時の各カテゴリの観測度数を算出したところ、差が10%以上である中カテゴリはなかった。

全体的印象評定 筆者と臨床心理学を専門とする教員1名で、コラージュ作品40枚(円形20枚、四角形20枚)の全体的印象評定を行った。円形の台紙と四角形の台紙で制作した作品のそれぞれの

Table 15. コラージュ制作における抵抗・不安(質問8)の回答のカテゴリ分類と観測度数

大カテゴリ	中カテゴリ	分類基準	観測度数(%)	
			円形	四角形
不安あり	制作できるかの不安	うまく作れるかといった不安	1(14.3)	1(16.7)
	切片の選択への不安	何を貼ったらいいかといった不安	1(14.3)	1(16.7)
	表現への不安	自分をどう表したらいいかといった不安	4(57.1)	4(66.7)
	制作しにくさ	作りにくさを感じた	1(14.3)	0(0.0)
			7(31.8)	6(27.3)
不安なし	不安なし	不安は感じなかった	15(68.2)	16(72.7)
			22	22

複数回答あり。

印象を Table16 に示した。

同一人物が制作した作品を比較した際に、それぞれ印象が異なる作品が多かったが、中には印象が変わらなかった作品もあった。印象が変わらない作品を制作したのは 20 名中 3 名であった。制作者によって、台紙の形によってコラージュ表現が変わる者と、変わらない者があることがわかった。台紙の形によってコラージュ表現が変わった例を Figure1 に、台紙の形によってコラージュ表現が変わらなかった例を Figure2 に示した。

考察

本研究の目的は、円形の台紙と四角形の台紙を用いて、大学生を対象にコラージュ制作を行い、コラージュ表現の場としての台紙の形からどのような印象を受けるかに着目し、それが自己への気づきにつながっているかどうかを検討することと、円形の台紙を用いたコラージュの有用性について検討することであった。

台紙の形によるコラージュの形式的・内容的な異同 コラージュで表現した内容として、《理想》は円形に多く、《現在の自分》は四角形に多かった。テーマを「私」に設定し制作させたために、これらの内容は表現しやすかったと考えられる。また、調査対象者の多くが大学 3 年生であり、進路を模索する時期であったため、自分の《理想》について考えたり、《現在の自分》を振り返ったりしやすかったと考えられる。円形の台紙で制作した際に、「時計」や「時間軸」を表現したという回答もあったことから、円形の台紙では時間的な展望に意識が向き、〈将来〉や〈願望〉といった自分の《理想》に関する内容となったことが考えられる。

コラージュに「私」を表す切片を貼ったかどうかについて、台紙の形による差は見られなかった。村瀬 (1987) は自己像としての「対象」が存在することにより、自分自身を相対化し得ると述べている。台紙の形により「私」を表す切片の有無に差が見られなかったことから、自分自身を相対化し得る場として、台紙の形による違いはなかったと考えられる。

「私」らしさの程度については、台紙の形による差はみられなかった。5 件法で尋ねたところ、多くの人が「ややそう思う」、「とてもそう思う」と回答していた。「私」をテーマに作品を制作させたため少なからず「私」らしさは表れると考えられ、天井効果の可能性も考えられる。「私」らしさ

Table 16. コラージュ作品の全体的印象評定

	円形	四角形
全体の印象	雑然としている 自由 やわらかい	整然としている
枠の意識	枠の意識が弱い	枠の意識が強い
上下の意識	上下の意識が弱い	上下の意識が強い
配置	中心を意識した配置	ブロック分けした配置
切片の切り方	角がない切り方	角がある切り方



Figure 1. 台紙の形によってコラージュ表現が変わった作品 (A 群・女性)

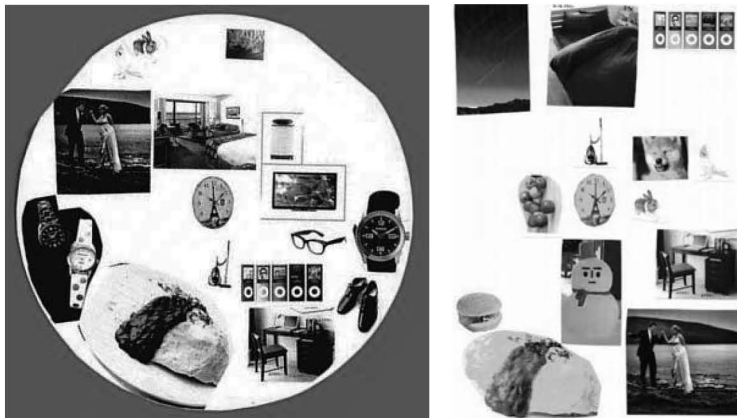


Figure 2. 台紙の形によってコラージュ表現が変わらなかった作品 (A 群・男性)

を感じる理由については、《制作時の気分》は円形に多く、《コラージュ内容》は四角形に多かった。《制作時の気分》は、「深く考えずにできた」、「適当に貼った割にうまくまとめられた」など、思いつくままに制作できたところに「私」らしさを感じていた。《コラージュ内容》は、自分の〈好きなもの〉や〈内面〉が表現できたことに「私」らしさを感じていた。

コラージュ表現における台紙の形による異同 コラージュ制作経験があったのは2名であった。

コラージュを頻繁に制作している者や円形の台紙での制作経験がある者がいた場合、台紙の形への印象やコラージュ制作に対する抵抗など、本研究の結果に影響する可能性を考慮したが、2 名とも中学生の時に四角形の台紙に制作しており、本研究の結果への影響は小さいと考えられる。

台紙の形から受けた印象について、〈発想しやすさ〉、〈配置しやすさ〉からなる《やりやすさ》カテゴリは円形に多く、〈発想しにくさ〉や〈制限〉からなる《やりにくさ》カテゴリは四角形に多かった。また、印象は《特になし》カテゴリが四角形に多かった。

佐藤・松村 (2004) は、四角形は底辺が存在するため、視覚的座標軸を想定しやすく、安定した印象を受けやすく、配置もしやすいと考えられるが、円形は曲線のみで構成されており、視覚的座標軸を想定しにくいと述べている。しかし、本研究では、四角形の台紙で制作した際に、「四角いと枠があって貼るところに迷った」、「閉塞感があったっていうか、枠に収まらなければいけない」のように、四角形という枠から〈制限〉という印象を受けているという回答があった。また、円形では円の形から「自分と周りの環境」、「頭の中」、「時計」のようなイメージが浮かび、〈発想しやすさ〉を感じるという回答があったが、それに比べて四角形ではイメージが浮かびにくく、「普通に貼っていくだけ」であり「難しい」と感じており、配置がしにくいと感じた者もいたと考えられる。また、円形の台紙で制作した際に、「丸の方は自由な感じがして、はみ出してもいいと思った」という回答や、余白についても「あってもいいのかな」と感じたなど、〈配置しやすさ〉を感じていた。

描画における枠には、表出を制限し拘束する側面と、自由な表出を保護し解放する側面がある (中井, 1974)。健康な一般成人にとっては、台紙の四辺がある程度「枠」としての機能を果たすと考えられる (今村, 2001) ことから、本研究の対象者の多くは、四角形の台紙において四辺を枠としてとらえ、表出を制限し拘束するという枠の側面がはたらいたのではないかと考えられる。一方、円形に関しては、「自由な感じ」、「調和がとれた」と感じた者が多かった。円形の台紙においては表出を制限したり拘束したりする側面がはたらかず、自由な表出を保護し解放する側面がはたらいたのではないかと考えられる。

四角形の台紙から受ける印象を《特になし》と感じたのは、図工や美術の授業での描画における台紙や、レポート用紙など、大学生にとって四角形の用紙は見慣れていると考えられ、特別な印象を持たなかったためではないかと考えられる。

コラージュ制作時の台紙の形への意識内容については、《配置》が円形に多く、《意識なし》が四角形に多かった。佐藤・松村 (2004) は、円形の台紙で制作したコラージュについて、バランスをとるために、切片を利用して軸を作ったり、切片を散りばめたりしている例を挙げている。本研究でも、円形の台紙から浮かんだイメージをバランスをとって表現するために、どのような《配置》にするべきかを意識したと考えられる。また、四角形の台紙に対する印象が《特になし》であったことから、台紙の形を特に意識せず制作したものもいると考えられる。

「私」を表す切片の選択理由として、《内面の表現》が円形に多かった。面接での回答から、「この人が焦っているように見え、自分の気持ちを表せるといった」など、人物の表情を自分の気持ちと重ね合わせて表現している。質問紙での回答結果より、円形の台紙では《人物》を「私」を表す切片として貼ることが多かったことから、《内面の表現》に《人物》が適切であったと考えられる。

コラージュに表された気持ちや願望について、台紙の形による差は見られなかった。これは、円形は“内部のものが外に流れ出さないように守っている”（林，1991）ことと、内的・感覚的側面を有している（佐藤・松村，2004）ことから、円形の台紙には制作者の感情や願望が表現されやすいのではないかという筆者の考えに反するものであった。コラージュにおいては、台紙の形に関わらず、制作者自身の気持ちや願望が表現できると考えられる。

コラージュ制作を通して得た自己への気づきについて、〈他者から見た自分〉は円形に多く、〈現状〉は四角形に多かった。円形では《配置》を意識して制作したものが多かったが、《配置》を工夫して、〈他者から見た自分〉を表現した作品もいくつか見られた。また、質問紙の回答より、四角形の台紙におけるコラージュ内容は《現在の自分》が多かったため、「最近気分が落ち込んでいる」、「理想に向けて何もできていない」など、〈現状〉についての気づきを得たと考えられる。

より「私」らしいと感じる作品について「私」らしさの理由を尋ねたところ、《好みの表現》、《希望・願望の表現》カテゴリが円形に多かった。質問紙の回答より、円形の台紙では《制作時の気分》が「私」らしさに影響していた。思いつくままに制作した作品が制作者自身の好みを表現でき、「私」らしさを感じたと考えられる。また、制作者の感情や願望の表出に台紙の形による違いがみられなかったが、円形の台紙では、感情や願望の表出を「私」らしさと捉えるものがいたと考えられる。

コラージュで「私」を表現することについての抵抗や不安について台紙の形による差は見られなかった。抵抗や不安は《不安なし》カテゴリが台紙の形を問わず多く、本研究の対象者にとっては「私」をテーマとしたコラージュ制作に対して、抵抗や不安が少なかったと考えられる。しかし、佐藤・松村（2004）は安定感を欠いた心の状態を有する者は円形や四角形の活動的な側面を色濃く感じるがあると述べており、臨床群では異なる結果が得られる可能性がある。

台紙の形によるコラージュ表現の違い 筆者と臨床心理学を専門とする教員1名がコラージュ作品に関して全体的印象評定を行った結果、円形の台紙で制作した作品は「雑然とした」印象や「自由」な印象のものが目立っていた。これは、円形の台紙では円形ゆえに枠の意識が強くなく、また、上下の意識も強くなかったためではないかと思われる。ただし、円環や中心への切片の配置など、円形の特徴を活かした作品は見られた。客観的に見てまとまりのない作品に見えるが、その分自由な表現が可能になるとと思われる。

一方、四角形の台紙で制作した作品は「整然とした」印象のものとなっていた。これは、枠や上下の意識が強いことや、台紙をブロック分けし、内容のまとまりごとに切片を配置した作品が多かったためであると思われる。岸井（2003）は、枠による画面構成がコラージュ表現に及ぼす影響について検討し、枠を付けた台紙では、コラージュ表現の「内容の焦点化」と、「構図のおさまり」が促進されると報告している。四角形の台紙ではダイナミックな表現は難しいと考えられるが、客観的に見てまとまりのある、整然とした印象の作品ができると考えられる。また、円形の台紙で制作した場合には自由な表現が可能となると考えられるが、自由であることが表現しにくさを感じさせる可能性もある。本研究でも、同じ対象者が制作した四角形の台紙を用いた作品と比較して、円形の台紙で制作した作品が表現的に乏しい印象を与える作品がいくつかあった（Figure3）。また、半構造化面接で「私」というテーマでコラージュを制作することへの不安について尋ねた際に、円形

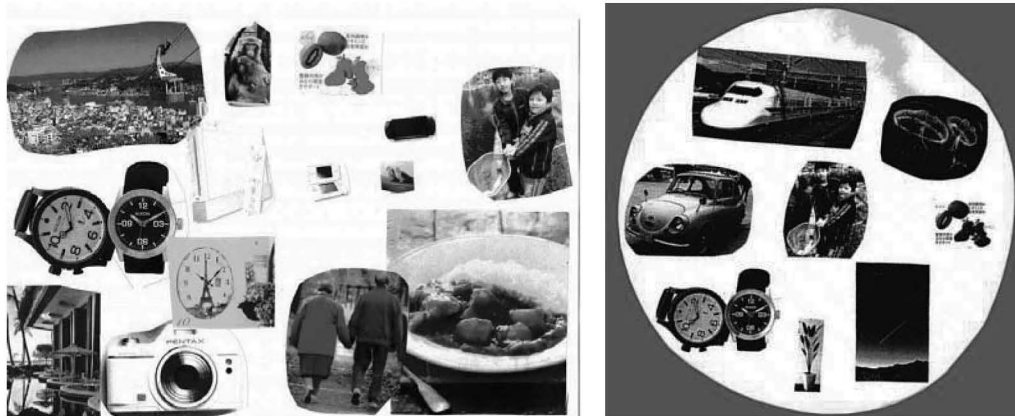


Figure 3. 円形の台紙では表現的に乏しい印象を与える作品 (B 群・男性)

の台紙で制作した際に「何を貼ったらいいかわからなくなった」と回答した者も 1 名いた。自由に表現することが難しいものにとっては、底辺があり安定した印象を与える四角形の台紙 (佐藤・松村 2004) を用いてコラージュを制作することで、枠にそって表現できると考えられる。

台紙の形の印象から自己への気づきを得るプロセス コラージュを制作した対象者自身が台紙の形から受ける印象に着目し、自己への気づきを得るプロセスを、事例を基に検討していく。事例は半構造化面接での語りを基に作成し、「」内は対象者の言葉を引用した。

事例 1 (Figure 4) 四角形の台紙について、印象は「あまり何も感じなかった」と述べ、制作時に台紙の形について「特に意識していな」かった。コラージュで「自分の内面」を表現しようとした。台紙の「右側のほうが自分のより暗い内面や、落ち込んだ時の自分」で、左側が「明るい自分」、左上に「最終的にこうなりたいと思っている自分」を表現した。「昔からうさぎの絵をよく描いていたので、自分を表すならうさぎかな」と考え、「今の自分の状態は暗い方ではなくて、今のところは明るい方にいるなと思って」台紙の左下に配置した。「あんまりいろんなことに左右されず、いつもちゃんとしていきたい」という願望を台紙の左上の「雪をかぶっても綺麗に咲いている花」に表そうとした。コラージュから得た自己への気づきについては、「今のところは落ち込みもせず、まだ大丈夫だな」と思ったと述べた。

円形の台紙から「自分と周りの環境」というイメージを持ち、「真ん中のこれ (月の切片) が自分という感じで、周りを、自分の周りの友達とか家族から見た自分はこう見えてるんじゃないかなというのに見立てて」表現した。「私」を表す切片を月にしたのは、「自分があんまり人に悩みとか相談したりする方じゃない」ため、「自分の暗い所はあまり周りに見せないの、周りからはそんなに暗いことを考えているとは思われていないんじゃないかな」と思っており、「私」を表す切片の周囲には「明るめの」切片を置いて「でも実際自分には暗いところもある」ことを示すためであった。コラージュ制作から得た自己への気づきについては、「今まではあんまり自分が他人に言われることを聞いても、本当の自分はそんなんじゃないしとか思ってたんですけど、でも周りが見てる自分も、自分自身なのかなという風に思いました」と述べた。



Figure 4. 事例1で制作された作品 (B 群・女性)

事例2 (Figure 5) 円形の台紙から「優しい」、「明るい」というイメージを受け、「自分中心に考えて、楽しいことをイメージして」制作した。作品にも自分の「明るい面」が表現されたと述べた。

また、四角形の台紙からは「制限されているような感じ」がしたと述べており、それがコラージュの内容に「だいぶん影響」したと述べた。具体的には、「自分の中の世界と外の世界みたいな感じで世界観を分けられる感じになった」ため、「少し暗めのものも入れた」。コラージュから得た自己への気づきについては、「自分が物に囲まれていないとだめだな」という気づきや、「とらわれてる感が外の世界ではあるのかなっていう風に感じました」と述べた。

事例1では、四角形の台紙の印象は《特になし》であったが、「自分の内面」をコラージュに表現しようとし、「落ち込んだ時の自分」、「明るい自分」、「最終的にこうなりたいなと思っている自分」の3つの領域に分けて切片を配置した。「私」を表す切片を「明るい自分」の領域に貼り、「今のところは落ち込みもせず、まだ大丈夫だ」という〈現状〉に関する気づきを得ていた。また、円形の台紙から「自分と周りの環境」というイメージが喚起され、自分と周囲から見た自分をコラージュに表現した。円形の特徴を活かし、中心に「私」を表す切片を、周囲に他者から見た自分を配置していた。コラージュ制作後に〈他者から見た自分〉も自分であるという気づきを得た。

事例2では、円形から〈明るさ〉という印象を受け、「楽しい事をイメージして」コラージュを制作し、自分の「明るい面」についてという〈現状〉に関する気づきを得た。また、四角形の台紙から〈制限〉という印象を受けた。また「自分の外と中の世界」とに分けられる感じを受けたために「少し暗めの」内容も含めた。コラージュ制作後に、自分の性格や感覚など、自分の〈現状〉についての気づきを得ていた。

以上の事例から、台紙の形の印象が作品の表現に影響を与え、対象者自身が制作した作品を見ることで、作品から自己への気づきを得るというプロセスが示された。これらの2事例では、対象者が2つの台紙の形からそれぞれ異なる印象を受けており、コラージュ表現や自己への気づきの内容も異なっていた。このことから、台紙の形を変えることによって異なるコラージュ表現や自己への気づきが得られると考えられる。



Figure 5. 事例2で制作された作品 (A 群・男性)

円形の台紙を用いたコラージュの有用性 円形の台紙で制作したコラージュでは〈発想しやすさ〉、〈配置しやすさ〉といったコラージュ制作における《やりやすさ》を感じやすいことと、自由な表現が可能になることが示唆された。

石口・島谷 (2010) によれば、コラージュ制作において、制作前にイメージがわからないと気がかりや戸惑いを体験するとされている。また、切片の切り抜き作業や作品の構成配置などの制作作業から集中、充足感、不全感、焦燥感、辛苦などの気持ちや体験が喚起されるという。制作中に不全感、焦燥感、辛苦などの体験をした場合、制作後に不全感、焦燥感、辛苦などを感じやすいという。円形の台紙を用いた場合は、制作前にアイディアやイメージが浮かびやすいため、イメージがわからないことから起こる気がかりや戸惑いを体験しにくいのではないかと考えられる。また、制作中は円形の台紙から〈配置しやすさ〉を感じやすいため、制作作業から不全感や焦燥感を感じにくく、制作後もこれらの感情を感じにくいと考えられる。このことから、円形の台紙を用いたコラージュは有用であると考えられる。

今後の展望 本研究では、対象者の人数が少なかった。今後は対象者の人数を増やして実施し、統計処理を行い、台紙の形による違いについてのより客観的な検討が必要となる。

また、本研究では円形の台紙と四角形の台紙をそれぞれ1回ずつ制作したのみであった。コラージュ研究においてはコラージュを1回のみ制作させる場合が多いが、1回きりのコラージュでは自己開発の効果が少ないという指摘 (重松, 2008) もあり、臨床場面においては、コラージュ療法は継続的に作品を制作し、作品の変化と関連性を見ていくことで、クライアントの心理的変容が把握できる (杉浦, 1994)。系列的に作品を見ていき、また制作者の内的変化を見ていくことで、円形の台紙を用いたコラージュの特徴がさらに明らかになっていくと考えられる。

引用文献

赤塚絵里 (2005). 自己コラージュ制作による自己受容度の変化, およびその表現—大学生女子を対象として— 臨床心理学研究, 3, 13-25.

- 青木智子 (2000). コラージュ技法・療法の現状と課題—コラージュ技法の解釈, 現状の成果と問題点— カウンセリング研究, **33** (3), 323-333.
- 青木智子 (2009). マンダラ・コラージュ—自己理解の可能性— 文教学院大学保健医療技術学部紀要, **2**, 31-40.
- 今村友木子 (2001). 分裂病患者のコラージュ表現—枠の効果に関する検討— 日本芸術療法学会誌, **32**, 14-25.
- 石口貴子・島谷まき子 (2010). コラージュの継続制作における心理過程 昭和女子大学生活心理研究所紀要, **12**, 63-74.
- 烏丸佐知子 (2007). コミュニケーションワーク活性剤としてのコラージュの有用性について 文教短期大学研究紀要, **46**, 109-119.
- 岸井謙児 (2003). 色と枠による画面構成がコラージュ表現に及ぼす影響について (その 2) —台紙における枠がコラージュ表現に及ぼす影響— 日本芸術療法学会誌, **34** (1), 46-51.
- 森谷寛之 (1993). 砂遊び・箱庭・コラージュ—箱庭療法とコラージュ療法に関する雑感— 森谷寛之・杉浦京子・入江 茂・山中康弘 (編) コラージュ療法入門 創元社 pp.147-156.
- 村瀬嘉代子 (1987). 心理療法と自然—その 2, 心理療法過程に登場する動物の治療的意味— 大正大学カウンセリング研究, **10**, 38-63.
- 中井久夫 (1974). 枠付け法覚え書 芸術療法, **5**, 15-19.
- 中村勝治 (1999). コラージュ療法の独自性 現代のエスプリ, **386**, 42-50.
- 齋藤 眞 (1993). コラージュイメージについて 森谷寛之・杉浦京子・入江 茂・山中康弘 (編) コラージュ療法入門 創元社 pp.183-196.
- 佐藤仁美・松村陽子 (2004). コラージュ表現における台紙の形のもつ意味 放送大学研究年報, **22**, 37-44.
- 重松由実 (2008). キャリア支援の一環としての集団コラージュ導入の試み 山梨英和大学心理臨床センター紀要, **4**, 51-63.
- 杉浦京子 (1994). コラージュ療法 川島書店
- 田中勝博・今野裕之・小佐野綾 (2003). 卵画と洞窟画の基礎研究 (1) —楕円枠線画刺激による描画促進に関する研究— 目白大学人間社会学部紀要, **3**, 77-96.
- 丹治光浩 (2000). 箱庭療法における箱の形に関する臨床的研究 カウンセリング研究, **33** (3), 276-284.
- 山口由衣・王 晋民・椎名 健 (2004). 図形の心理物理的特徴と意味特徴の対応関係 認知心理学研究, **1** (1), 45-54.